Journal of Agricultural Meteorology(JAM)の国際誌としてのプレゼンス向上の取り組み Journal Consultingを受けて

日本農業気象学会
編集理事　米村正一郎・小野圭介（農研機構）・渡辺誠（農工大）
細井文樹（東大）・増冨祐司（茨城大）
編集委員長　谷晃（静岡県大）

JAMの発行元である日本農業気象学会

- 学会長：北海道大学　平野高司教授
- 学会員数：637名（うち正会員419名）
- 日本農業気象学会は、農業生産と気象の関係、農耕地における気候、微気象の成り立ち、耕地・施設環境の改善・調節などに関する知識の向上と普及を目的としています。

- 学際的な会員および学会の活動分野（森林分野も含む）

(1) 作物気象反応、収量予測、適地判定
(2) 施設内の環境調節
(3) 気象災害、気象改善
(4) 気候、生物季節
(5) 接地気象、物理気象、局地気象
(6) 生物生産システム（植物工場、植物組織培養）
(7) 農業情報システム
(8) 測器、測定法

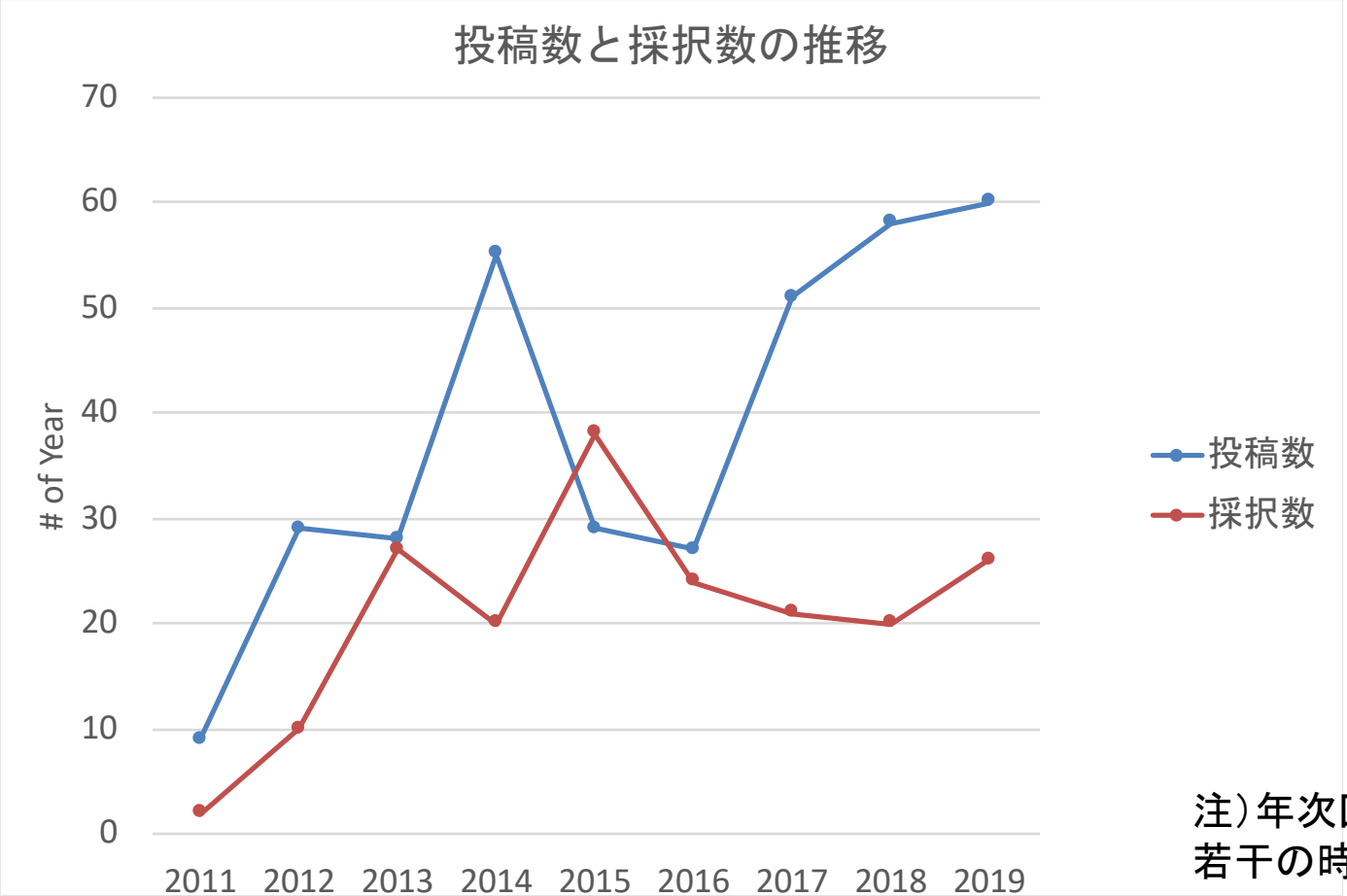
学術誌の発行（4回/年）

- Journal of Agricultural Meteorology （農業気象）
  - 1944年：創刊（2018年IF=1.095)し, 1955年からQuaternaryを維持
  - 2011年：完全に英文誌化
  - 2015年：ISIに登録
    - 分類Agricultural Interdisciplinary, Meteorological Sciences
  - 2019年：Journal Consultingを受ける
  - 目標雑誌：Agricultural and Forest Meteorology(IF>4)
  - 競争雑誌：Environmental Control in Biology（生物環境調節学会）、Plant Production Science（作物学会）、<u>雑誌の学際性から競争相手は見えにくい</u>

- 生物と気象
  - 2011年より日本語の論文を掲載
  - 学会の連絡的役割も持つ

JAM発行と採択数（率）の推移

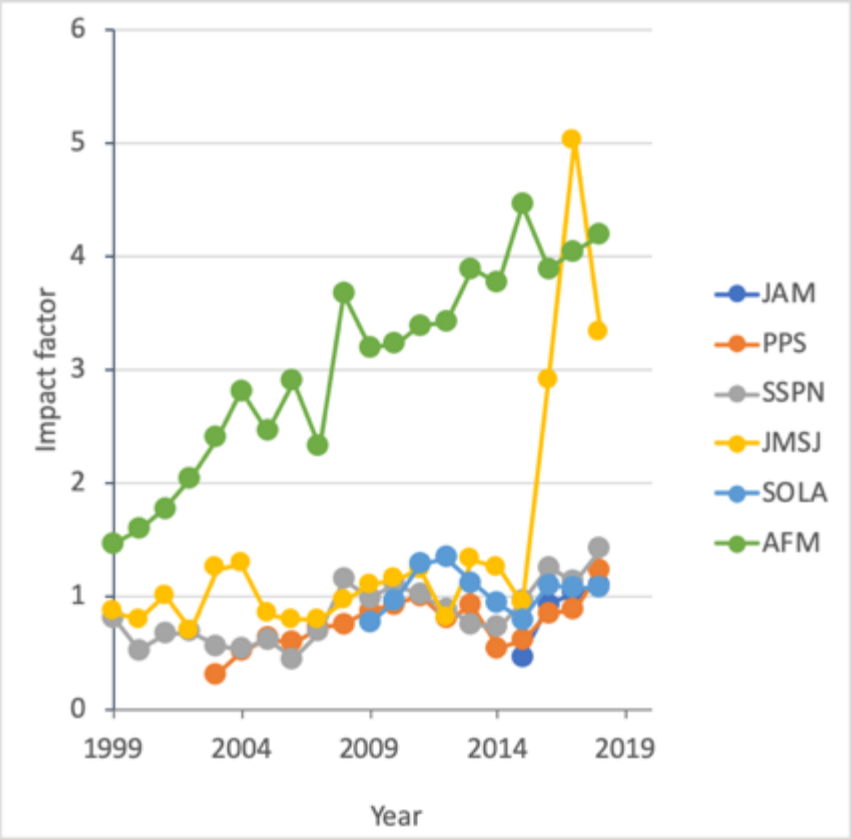
- JIF付与後、投稿数は急激に増加したが、採択数は変わらず



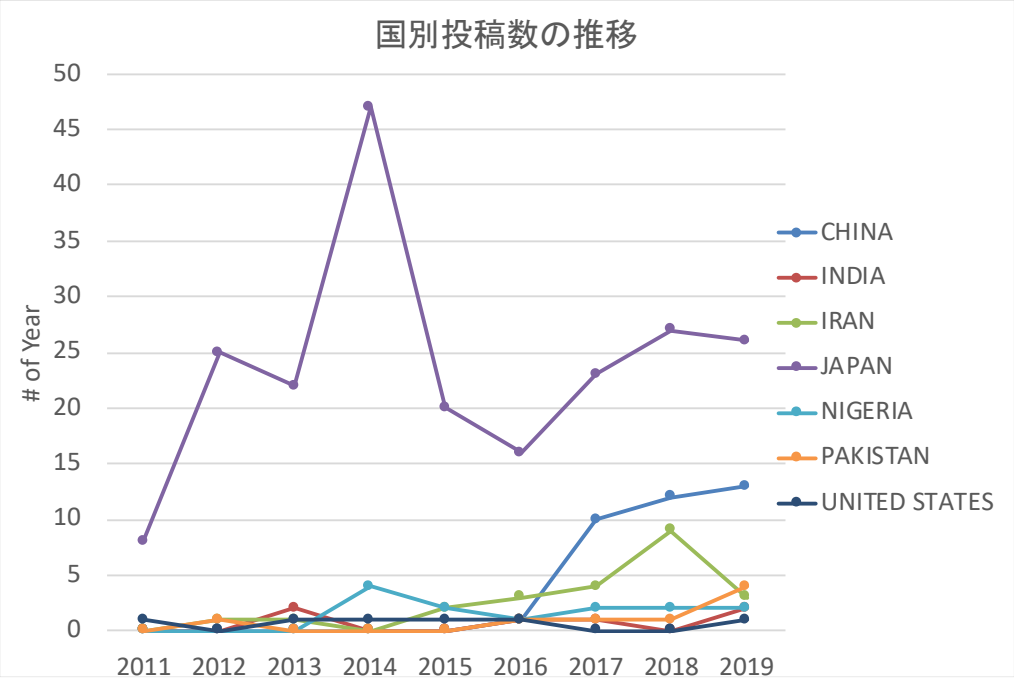
注）年次区切りなので採択数は若干の時間遅れが生じる

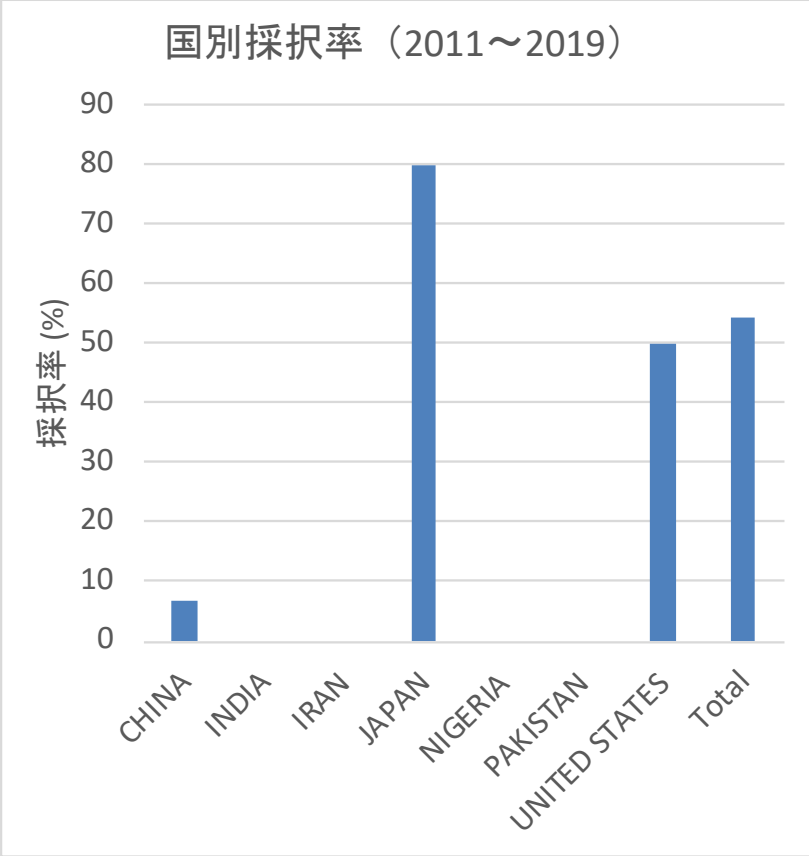
JAMのIF推移と論文種別

- IFの値などを見ても、日本の多くの雑誌が伸び悩む傾向にある(環境系・農学系を見てみても0.2-2の間程度)。



地域・国別投稿数の推移と採択率

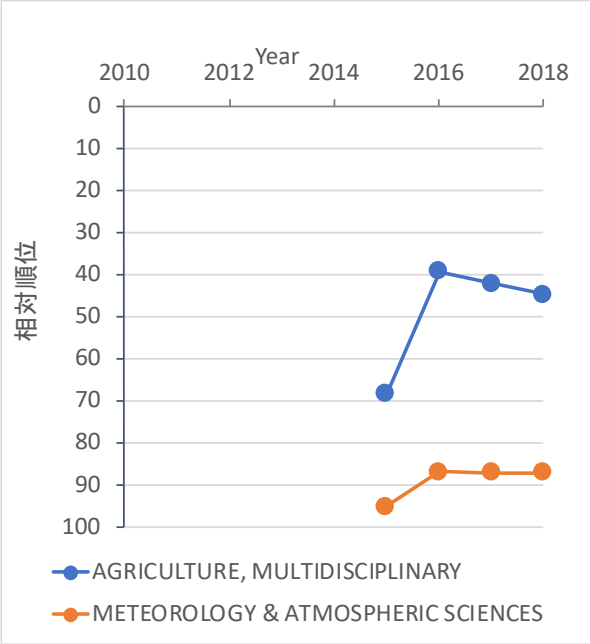


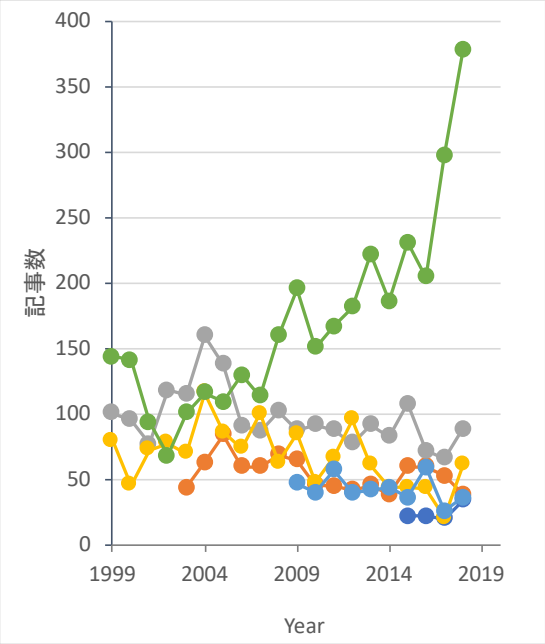


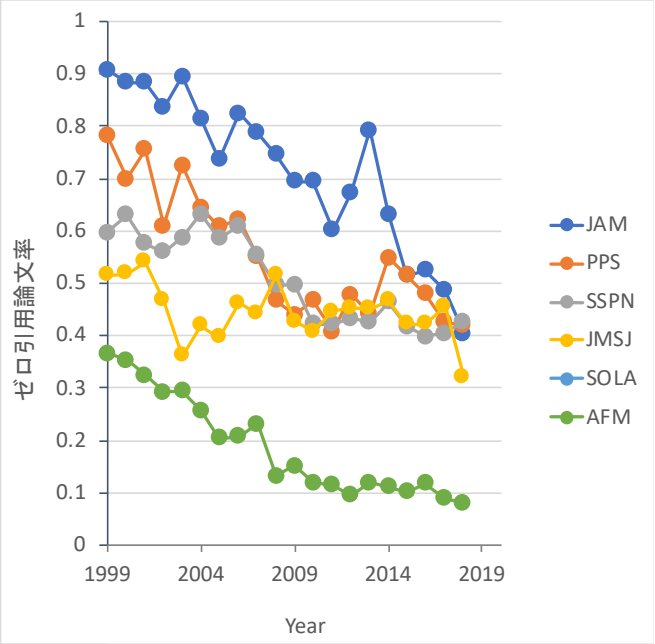
2011～2019年投稿数上位7カ国

JAM発行における現状

- IFは徐々に増加しているが分野内相対順位は低下傾向
- 記事の数が相対的に少なめ







学会の問題点とJAMの課題

- 会員の母体
  - 大学農学部（関連する生物資源学部、生物環境学科、大気環境など）
  - 国立研究開発法人　農研機構　各研究センター、公設試験研究機関など
  - 以上の会員からの会員費の比率が財政上大きく、関連業界からの会費・寄付金が少ない傾向にある。
- 会員数について
  - 会員が減少（ここ数年は横ばい）
  - 正会員の約50%が50代。10年後までに若手会員を確保できなければ半減に近い状態になり得る。
- 将来的には他学会との合併も考えられるが、<u>JAMの経済基盤をしっかりとする必要がある</u>。

雑誌の問題点とJournal consultingの目的

- JAMの掲載論文数は、より格が上の雑誌に比べてずっと少ない。
- しかしながら、農業気象分野に関わる国際雑誌は限られており、国際的プレゼンスを発揮できる可能性があると考えられる。
- 具体的な目標と対策
  - 掲載数を増やさないと、世界的な認知度が高まらない。1.5倍程度に伸ばしたい
  - 掲載数増加に対応できるように、数値的な分相応２（IFなど）に応じた査読レベルの簡素化、能率的な編集委員体制の確率確立と国際化
  - 以上のために、雑誌の運営上のインフラの整備
- Journal Consultingの目的
  - Journal consultingを受けることにより、JAMが国際雑誌と運営するインフラの整備を最大限行うが目的である。

Journal Consultingの内容

- Journal Consultingの内容（スケジュールはJSTの説明）
  - A) JAMを客観的な評価を受けたこと（９月）
  - B) Open access journalとしての整備（小野）
  - C) Instruction for Authors (ITA)の改良（米村・小野・谷）
  - D) xmlファイルの推奨（細井・小野）
  - E) 学会ホームページから雑誌のホームページの独立化（小野）
  - F) 編集体制の整備（谷）

- 関連した内容の整備
  - G) Editorial Managerの文章整備（米村）
  - H) J-Stageの表紙ページの改良・編集体制の記載（米村）

A) Assessment sheet : JAMの客観的評価

- アンケート用紙を学会編集委員会側で記入の後、INLEXIO側が作成（適宜version up）：以下、ほんの一部抜粋

良い雑誌の例

悪い雑誌の例

JAMの現状

対策

Editorial / Content	*Low number of published articles per year (e.g. less than 30)*	*Healthy publication numbers (~100+)*	Less than 30	Implement Development Plan
	Low submissions	*High submissions*	Fairly low	Implement Development Plan
	Low rejection rate	*High rejection rate*	Low?	Increase submissions
	Low citation rates	*High citation rates*	Unknown	Undertake citation study
	Flawed study designs	*Robust study designs*	Editors to assess (goes to PMC criteria)	
	Flawed conclusions	*Appropriate conclusions*	Editors to assess (goes to PMC criteria)	
	Inadequate references	*Appropriate references*	Editors to assess (goes to PMC criteria)	
	No clear strategy on articles types, with no outstanding Review articles	*Appropriate and relevant article types, with outstanding Review articles*	Undefined "Other" category	
	No Special Issues or Sections or commissioned articles	*Appropriate and important Special Issues article types, commissioned articles*	Special Issues published	The "Other" category of articles sh be reviewed
	Being published in the journal does not help a researcher in their career (such as grant applications etc.).	*Being published in the journal helps a researcher in their career (such as grant applications etc.)*	Editors to assess, but perhaps could be improved	
	Peer reviewers provide poor reports based on their poor perceptions, or poor understanding, of the journal	*Peer reviewers provide full advice based on their good perceptions of the journal*	Editors to assess	Implement Development Plan
	Little or no feedback to referees about their reviews and those of others for the manuscript they worked on	*Frequent feedback provided to referees*	Editors to assess	
	Few countries submit	*Many countries submit*	Few	
	Turnaround times slow	*Turnaround times fast*	OK to slow-ish	Implement Development Plan
				Review where delays occur and re workflows to decrease turnaround

B) Journal のオープンアクセス化

- INLEXIO社との議論により、現在の科学雑誌の状況のもとどこまでのオープンアクセス化すればよいか状況が明確になった。

- 2020年度中にCC-BYを導入するとともに、著作権を著者帰属とすることを決定した。また、DOAJへの登録も併せて申請予定。

C) ITAの改良

- 雑誌のITAは、これまでpdf(4ページ）のものしかなかった(pdf参照）
- AssessmentからINLEXIO社からITAが提供され、それを編集員側で編集し、INLEXIO社で直すという作業が2度行われた。
- 国際雑誌の体裁を整えたということになるが：
  - 著者、査読者、編集委員、編集委員長などの役割分担・権限・責任の明記
  - 二重投稿の禁止、サンプル情報の明記、各種データの権限、安全面など
- などをきちっと明記したことが特徴と感じられた。

D) Journal のxmlフォーマットの整備

- XMLフォーマットは理念的には、作成してしまえばpdf, html形式など様々な場面での形式に変換できる万能formatとされる。
- 現在学会事務局をお願いしている印刷会社と議論。印刷会社からの意見：
  - 理想的には良いが、結局、目でみて出来上がりをチェックしていかないと現状では難しい。
  - 現在あるXMLファイルが今後とも長く続くかどうかを見守っている。
- 以上ではあるが、テストで少し行ってみることになった。

E)　雑誌ホームページの独立化

- 現在は、学会ホームページの中に、雑誌の紹介や説明がある。
- 世界的には雑誌の客観性を維持するために、学会を含め特定の団体から独立するということが必要である。

- そのため、雑誌のホームページも独立して作成した方がよいと助言を受けた。
- 予算面の調整をしつつ、現在進行中である。

F) 編集体制の整備

- 外国人編集委員の導入
  - Advisory boardに形式的に外国人が入っている感じである。実質的には、あまり機能していないが、機能する（総説や採択の難しい判断を依頼など）方向性での検討は行っている。
  - 学会の実質的最終決定場所である、学会理事会での議論（8月）が行われたが以下の点などから反対があり、一筋縄ではいけないものと思われた
    - 学会員ではない編集委員は問題ではないか。
    - 今の農業気象はうまくいっている。そのため、特に編集体制の改革は必要ないのでは。
  - <u>長期的な体制整備が重要であると考えられた</u>

- 現在の3段階審査→2段階審査

  編集理事＞担当編集委員＞査読者

  編集委員＞査読者

  <u>目的としては、審査数の増大に伴う審査の能率化である。</u>

  現在、検討中

G) 関連内容：Editorial Managerのメッセージ改良

- 外国人が関係する著者・査読者へのメッセージを日英併記（ローカル色）から英語のみへ。
- 作成後、INLEXIO社による修正（ご厚意による）。
- トップページの日本語コメント→英語コメント

11-09.採否決定 － 不採択/Editor Decision – Editor Reject	Decision	
12-01.修正投稿初回督促/Revision First Reminder	Author Reminder	
12-02.修正投稿督促-2 回目以降/Revision Subsequent Reminder	Author Reminder	
12-03.編集者リマインダー/Editor Reminder	Editor Reminder	
13-01.査読打診回答督促/Reviewer Reminder – Invitation	Reviewer Reminder	
13-02.査読報告督促(期限前)/Reviewer Reminder-Before DueDate	Reviewer Reminder	
13-03.査読報告督促（バッチ）/Reviewer – Batch Late Review	Reviewer Reminder	
13-04.査読報告督促(初回)/Reviewer – First Late Reminder	Reviewer Reminder	
13-05.査読報告督促(2 回目以降)/Reviewer – Second LateReminder	Reviewer Reminder	
14-01.ディスカッション開始/Discussion Forum Invitation	ディスカッションフォーラム	

11-02.採否決定 - 不採択/Editor Decision – Reject
Ref.: Ms. No. %MS_NUMBER%
%ARTICLE_TITLE%
%JOURNALFULLTITLE%

Dear %TITLE% %FIRST_NAME% %LAST_NAME%,

Reviewers’/Editor’s comments on your manuscript are appended below. You will see that they are against the publication of your work. Following their comments, your manuscript was unfortunately determined to be rejected. Thank you for giving us the opportunity to consider your work as a potential contribution in %JOURNALFULLTITLE% and we hope that those comments can help your future studies.

Yours sincerely
%JOURNALFULLTITLE%

Reviewers' comments:
%COMMENTS_TO_AUTHOR%

H)　関連内容：J-Stageの表紙ページの改良・編集体制の記載

- トップページの説明を加えた。
- 編集委員のリストを加えた。
- 投稿規定を雑誌ホームページ（pdfではない）へ。

- 以上の過程で、JST側からのコメントをもらったりした

（解決できていない点）トップページでの引用トップの論文群がいつも同じ。自動サーバによる読み込み？

Journal Consultingのまとめ

- Journal Consultingのまとめ

  A) JAMを客観的な評価を受けたこと→OK！
  B) Open access journalとしての整備→OK！
  C) Instruction for Authors (ITA)の改良→OK！
  D) XMLファイルの推奨→試行しながら様子を見ている
  E) 学会ホームページから雑誌のホームページの独立化→進行中
  F) 編集体制の整備→中長期的に検討

- 関連した内容の整備

  G) Editorial Managerの文章整備→OK！
  H) J-Stageの表紙ページの改良・編集体制の記載→OK！

コンサルティングを受けてよかったこと

- 国際雑誌としての観点からJAMの客観的評価が得られ、それに応じた各種作業を具体的に行うことが出来た。

地道な作業であり、すぐに雑誌の評価が上がるものではないが、提案された改革の大部分を実施

- 具体的な作業の他
  - 学会（役）員の教化に貢献
  - 雑誌や学会の将来について、考える契機になった

- これからコンサルティングを受ける学協会の皆さま方へ
  - <u>やる気と枠割分担の明確化</u>　の2つが重要
    - 主に時間をかけられる役目の人とそれ以外の内容についての役割分担の明確化
  - <u>学会の理事会</u>等への配慮や日程調整

謝辞

- 国立研究開発法人科学技術振興機構 情報基盤事業部研究成果情報グループ　および関係の皆様方

- INLEXIO社 Dr. Dugald McGlashan, Dr. Caroline Hadley